

広島・小1女児殺害:事件から3年 揺れる被害者父の思い「死刑でも喜べぬ」

広島市安芸区で小学校1年、木下あいりちゃん(当時7歳)が殺害された事件から、22日で3年。自衛官の父建一さん(41)が毎日新聞の取材に応じ、「もう3年たったのか、という気持ち。いろんなことにあいりの意思を感じます」と話した。

また、ホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(36) = 1審・広島地裁で無期懲役の判決を受け、12月9日に広島高裁で判決予定 = に対しては、「被告のように人を殺すの(を求めるの)は本意ではないが、無期懲役だと納得できないと思う」と複雑な心境を語った。

建一さんはこれまで、一貫してトレス・ヤギ被告の死刑を求めてきたが、取材には「時がたつにつれ、被告の生命も、あいりの命も、私の命も、一人一人大切なものではないかと考えるようになった」「控訴審で死刑が出ても、単純に喜べない。もし死刑が出なかったらホッとするかもしれない」と述べた。

その一方で、無期懲役について「もし彼が出所して誰かを傷付けたら、誰が責任をとるのか。一生、中にいてほしい」とし、「同じように被害に遭った人や支援者のためにも、無抵抗な女の子が性犯罪で殺されるという事件を許してはいけない」と話した。【矢追健介】

あいりちゃん母校で「集い」

あいりちゃんを通った広島市安芸区の市立矢野西小学校(644人)では21日、体育館で「安全・祈りの集い」が開かれた。全児童や保護者、教職員が参加し、土田真理子校長は「ますます悲しみは募り、無念でなりません」と話した。

集会では、あいりちゃんが「将来は看護師になって、病気で苦しむ人を助けたい」と話していたことを紹介。参加者は黙とうし、あいりちゃんにささげる歌を歌った。

体育館には、ヒマワリの絵92枚がステージ一面に飾られた。今年から学校で育てたヒマワリを1年生が描いたもので、あいりちゃんが幼稚園の時に育てていたヒマワリの種から咲かせた。【大沢瑞季】

=====

ことば

広島小1女児殺害事件

05年11月22日、下校途中の木下あいりちゃんがトレス・ヤギ被告に殺害され、空き地で段ボール箱に入れられた遺体が見つかった。広島地検は死刑を求刑したが、広島地裁は06年7月、計画性がない、などとして無期懲役を言い渡した。検察、弁護側双方が控訴した。

毎日新聞 2008年11月21日 大阪夕刊